

JOIN US

すべての人々がお互いに助け合える社会へ、皆さまのご支援をお願いします。

ピースボート災害支援センターの活動は、皆さまのご支援で支えられています。

皆さまからお預かりした寄付金・募金は、被災者・被災地の支援活動や防災・減災教育の推進のために大切に使用いたします。

毎月寄付 災害支援サポーター

支援金は報道の量に比例して災害直後に集まる傾向がありますが、被災地の復興には長期にわたる支援が必要です。月額でPBVの継続的な活動を応援する「災害支援サポーター」にご協力ください。

月額 **1,000** 円からご支援いただけます
(お支払いはクレジットカード決済となります))



詳細はこちら >>

https://pbv.or.jp/monthly_supporter

毎月寄付 フーバーサポーター

「FOOBOUR(フーバー)」は、平常時はひとり親支援、災害時は食の支援として活躍するキッチンカープロジェクトです。この取り組みを全国に広げるため、月額での継続サポーターを募集しています。

月額 **1,000** 円からご支援いただけます
(お支払いはクレジットカード決済となります))



詳細はこちら >>

<https://foobour.pbv.or.jp/support/>

今回のみ寄付 金額・支援先を選び寄付する

定額・連続ではなく、その都度、自由な金額でのご寄付です。お支払いは、クレジットカード決済・郵便振替・銀行口座などからお選びいただけます。

詳細はこちら >>

<http://pbv.or.jp/donate/donate>



ピースボート災害支援センターは、世界的なCSRプラットフォームサイト「Benevity」に登録されています。法人や社員からのご寄付の方法としてご利用いただけます。

Benevityでは、PBVの活動全体を支援する寄付のほか、個別の災害支援プロジェクトを指定してご寄付いただくことも可能です。お勤め先企業の社会貢献活動の一環として、是非お役立てください。



詳細はこちら >>



公益社団法人 ピースボート災害支援センター

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-29-20-1F

TEL | 03-3363-7967

URL | <https://pbv.or.jp>



公式WEBサイト



英語WEBサイト



公式SNS一覧

ピースボート災害支援センター (PBV)

2025年度 活動報告書

2025.4.1 ▶ 2026.3.31

PBV





災害対応や予防、被害の軽減は、国連が定める『持続可能な開発目標（SDGs）』全ての目標に関係します。PBVはSDGsの達成に貢献します。



東日本大震災とPBVの設立から15年を迎えました。約700名の皆様にご来場いただいた2026年4月の記念イベントは、この15年という時間は決して私たちだけで進んできたものではないことを実感する場でした。ご都合で参加できなかった方も含め、支援者の皆様、共に汗を流したボランティアや団体の皆様、そして初めての経験に戸惑いながらも共に歩んだ被災地の皆様こそが、PBVが15年をかけて築いてきた何よりの財産だと思っています。

「人こそが人を支援できるということ」

PBVが発足当初から掲げるこの言葉は、何も特別なことではなく、被災地の現場に立つ中で見えてきた当たり前の事実でもありました。災害でかつて誰かに助けられた人が、次は誰かのために立ち上がるという、自然な助け合いの連鎖を何度も目にしました。どんなに仕組みや技術が進化しても、困難な状況にある人の隣に寄り添い、直接的な支えになることができるのは、やはり「人」でしかありません。

世界では、ウクライナやガザ、イラン情勢などの厳しい状況が広がっています。国境や信条を越えて、誰かの隣に寄り添い、温かい食事を手渡し、共に明日を考える。その当たり前の人と人の関わりを積み上げていくことが、分断を乗り越え、世界を繋ぎ止める平和の土台になると信じています。

次の15年に向けては、私たちの経験をもっと社会に還元していく「仕組みづくり」の強化にも、さらに取り組んでいく必要があると感じています。そのためにも、PBVは支えてくださる皆様との繋がりをさらに大切に育てていきます。引き続き、ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

目次 CONTENTS

代表ごあいさつ	2
特集「設立15周年記念イベント」	3
PBVについて	5
PBVの災害対応	7
国内の災害支援	9
海外の災害支援	12
防災・減災の取り組み	14
ネットワーク、平時の取り組み	15
財務報告	17
ご支援・ご協力いただいた皆さま	18

公益社団法人
ピースボート災害支援センター
代表理事 山本隆



特集 PBV設立15周年記念イベント



2026年4月5日、横浜港に停泊する客船パシフィック・ワールド号にて「PBV設立15周年記念イベント」を開催し、約700名の皆様にご参加いただきました。当日の様子をダイジェストでご紹介します。



懐かしい再会と新しい出会い



これまでPBVの活動を支えてくださったボランティアや寄付者の皆様、企業・団体・ネットワークの皆様、そして共に困難を乗り越えてきた被災地の住民や行政、社会福祉協議会の皆様が一堂に会しました。会場のあちこちで再会を懐かしむ姿や、新しいつながりを楽しむ姿が印象的でした。

大勢の子どもたちも参加



イベントには、かつて20代30代だったスタッフやボランティアが家族連れで参加してくれました。約100人の子どもたちは、炊き出し用の大きなお鍋で遊んだり、特製ヘルメットのお面をつくったり、キッチンカー「フーバー」探しゲームに夢中になったりと、思い思いに楽しんでくれました。

特別展示、メッセージ



PBVの15年間の軌跡や、能登半島地震・奥能登豪雨の支援に関する写真展示を行いました。熱心に質問をしてくださる方も多く、スタッフが直接活動内容を紹介できる機会になりました。来場できなかった方々から事前にいただいたメッセージは、映像やパネルでご紹介させていただきました。

被災・避難生活の体験コーナー



体験コーナーでは、被災・避難生活を再現。「避難所へ行くのか、在宅避難をするのか」など、参加者の選択に合わせた次の体験が待ち受けています。避難所での困りごと、在宅避難中の課題、ライフラインが停止した中での食事の工夫など、災害を自分事としてリアルに感じられる場になりました。

トークセッション

メインイベントでもあるトークセッションでは、東北や能登などの被災地で活動を共にしてきたゲストの方々にご登壇いただき、PBV15年のあゆみ、そして現場での様々な課題や今後の取り組みについて意見を交わしました。

第一部 15年の軌跡 ～東日本大震災から能登半島地震へ～



(左から)第一部にご登壇いただいた阿部紀代子氏、神徳宏紀氏、坂口茂氏

【ファシリテーター】

山本隆 (PBV代表理事)

【登壇者】

阿部紀代子 氏

(株式会社八幡家代表取締役・株式会社街づくりまんぼう取締役)

神徳宏紀 氏

(社会福祉法人珠洲市社会福祉協議会・総務管理課、珠洲ささえ愛センター主事)

坂口茂 氏 (輪島市長)

第二部 災害支援の新たなステージへ ～現場・組織・人をつなぐPBVの役割～



第二部のファシリテーターを務めていただいた阪本真由美氏とPBV上島

【ファシリテーター】

阪本真由美 氏 (兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授)

【登壇者】

所澤新一郎 氏 (一般社団法人共同通信社共同通信編集委員)

原裕樹 氏 (公益財団法人味の素ファンデーション事務局長)

高智穂さくら 氏 (特定非営利活動法人ソナエト理事)

上島安裕 (PBV理事兼事務局長)

ピアノ演奏



第一部の最後は、スペシャルゲストとして長年PBVの活動にご協力いただいている吉俣良氏 (作曲・編曲家) によるピアノ演奏。ボランティアの活動や被災地での出会いを記録したスライドショーに乗せて、東北被災地を想って作曲された楽曲「添歩み(そゆみ)」を披露していただきました。

スピーチ



交流会では、福島県南相馬市の菅野菜緒氏がスピーチ。11歳の誕生日だった2011年3月11日の東日本大震災で被災してからの葛藤、被災者ではなく普通の中学生に戻って笑うことができた「福島子どもプロジェクト」での体験、教育の道に進むことを決めた決意について話してくれました。

イベント当日の様子、トークセッションの内容やメッセージ動画などは、PBV公式ホームページの特設サイトからご覧いただけます。



PBV15周年記念イベント
特設サイト

描く未来 VISION

人こそが
人を支援できる
ということ

ピースポート災害支援センター(PBV)は、被災地での災害支援活動や災害に強い社会づくりに取り組む公益法人です。

誰しものが、自然災害に遭遇する可能性があります。国や地域を越えて、すべての人々がお互いに助け合える社会を創ることが、困難に立ち向かう力になると信じています。

私たちの使命 MISSION

「お互いさま」を
共に歩む

いつ、どこで起こるか分からない災害は、時に私たちを被災者にし、時に私たちを支援者にもします。自分を守り、大切な人も守る。そして、少し遠くの「あの人」を支えます。PBVは、被災者や被災地域の回復のために、その文化や営みに寄り添い、支援者として自発的に関わる多様な人々の想いを具体的に“役に立つカタチ”にします。

被災地の課題解決 SOLUTION



ボランティア、スタッフの延べ活動人数

122,517人



家屋清掃、壁・床・屋根の応急対応

4,672件



被災地での食事支援(炊き出し)

162,911食



炊き出しの支援調整

1,572,357食



避難所の運営支援

145か所



災害ボランティアセンターの運営支援

42か所



仮設住宅への物資や見守り事業

40,514世帯



公民館・集会所のコミュニティ支援

353か所

これまでに支援した延べ被災地数

海外

34か国

国内

88地域



※実績は2011年3月～2026年3月までの累計

災害時と平時。

積み重ねが災害を乗り越える力に。

世界各地で災害が増え続け、激甚化しています。
災害に立ち向かい、回復する力(レジリエンス)は一朝一夕には身につけません。
PBVは、何度も被災地支援を実践し、その実践知を防災・減災の活動として社会に還元します。
決して諦めず、災害に強い社会を目指し続けます。

災害時

平時

中長期の課題解決

被災家屋の清掃、床下・壁・屋根の応急対応
災害ボランティアセンターの運営支援
仮設住宅支援、要配慮者・子ども支援
コミュニティ形成のサポート など

初動と緊急支援

物資支援、食事支援(炊き出し)
避難所の運営支援、衛生環境・感染症対策
在宅、車中、自主避難先等への支援
行政の災害対応業務支援、支援調整 など

支援計画と体制づくり

支援内容に合わせた専門スタッフの派遣
災害ボランティアの募集と活動調整
現地関係者、支援者間の連携・協働
寄付者・協力者への情報発信、後方支援

被害状況の調査

情報収集、関係者の安否確認
先遣調査、課題の把握
被災地、関係者からの支援要請
支援の決定



支援の振り返り

支援活動の記録、報告
資機材の回収と点検
検証・分析・評価
次の災害に向けた課題の整理

普及啓発

防災・減災教育による人材育成
研修、講演、執筆、事例発表
専門委員等の委嘱による研究・提言活動
災害に強い地域づくり

多様なネットワーク

地域に根ざした都道府県・市区町村ネットワーク
連携の結節点をつくる日本全国ネットワーク
国境を越えた国際支援ネットワーク
自治体や企業・団体との協定の締結

支援の事前準備

人道支援基準等のスタッフのスキルアップ研修
テーマ別、技術別の支援活動講習
PBVサポートスタッフ登録制度(サボスタ)
災害支援用の物資・資機材の備蓄や管理

支援を支えるサポーター

災害支援サポーター、フーバーサポーター、
個人・企業・団体からのご寄付、物資・サービスのご提供、ボランティアへの参加
被災地の行政・社会福祉協議会・地域での受け入れ協力 など

コミュニティ支援

※実績数は、2024年1月2日～2026年3月末までの累計です。

地域課題に向き合い、共に進む

能登半島地震 奥能登豪雨【石川】

災害により、奥能登地方の過疎高齢化は一気に加速しました。緊急期は半歩前で道を整える支援も必要でしたが、今は一緒に悩み実行する横並びのパートナーとして共に課題と向き合う関係づくりを大切にしています。



輪島市との包括連携協定



2025年8月21日、PBVと輪島市は包括連携協定を締結。能登半島地震の被災地支援に加え、今後はまちづくりや防災教育、地域社会の活性化に取り組みます。さらに、新たな災害発生時にも、迅速に相互連携できる体制を構築していきます。

FOOBOUR(フーバー) -わじま港-



2025年9月、PBVのキッチンカー「FOOBOUR -わじま港-」が輪島市内で始動しました。対象のひとり親家庭に向けて、車内の食料や日用品を24時間いつでも無料で提供し、生活をサポートしています。

「まちのの間」がオープン



輪島市町野町に地域住民の交流拠点「まちのの間(ま)」を開設しました。90歳のおばあちゃんが毎日1時間歩いて訪ねてくれたり、4歳の女の子が描いた絵を飾りに来てくれたり。あたたかな居場所として、地域の皆さんに育てていただいています。

何気ないおしゃべりの場を大切に



珠洲市では、発災直後から炊き出しなどの緊急支援に加え、お茶会などの何気ないおしゃべりができる場づくりを大切にしてきました。この場がずっと続くためにも、PBVの経験を地元の団体や関係者に繋ぐことも意識して活動しました。

輪島市での主な活動

コミュニティ支援



孤立を防ぎ生活を立て直すには、ホッとできる居場所が大切です。地域の復興の歩みに合わせ、移動型や常設のサロンを開催。また、みんなで集まる環境をサポートするため、集会所の備品を提供しています。同時に、孤立しがちな一人ひとりへの丁寧な見守りも続けます。

－実績－

移動型：市内全域40か所以上でサロン等の実施
(232回実施、のべ2,350人参加)
常設型：利用者のべ7,379人
(「まちのの間」は、2024年5月13日にオープン)
備品支援：地区の集会所88か所に、机・椅子、機材などの備品を提供

仮設住宅入居者への家電支援



－実績－

対象世帯数：4,425世帯
(地震：4,225世帯、水害：200世帯)
提供品目：掃除機、電子レンジ、炊飯器電気ポット、除湿器、ストーブなど

震災や豪雨で生活必需品を失い仮設住宅等で暮らす方々のために、広域避難先も含む全域を対象に2024年度から家電支援を継続しています。個々の世帯に合わせ、本当に必要な物を選ぶカタログ形式で届けています。

珠洲市での活動を振り返って

珠洲市への支援は、2023年5月の奥能登地震に始まり、2024年1月の能登半島地震、9月の奥能登豪雨と続きました。度重なる災害に、住民さんは心身ともに疲弊し、先の見えない状況に不安を抱えていました。その中で、行政、社協、住民、支援者が声を掛け合い、協力し、生活を取り戻そうと前を向いていく姿に、力強さを感じました。

2025年度の活動は、現地の自主的な動きをサポートできるよう、これまでのノウハウを地元の関係者へ引き継いだり、災害支援に必要な資機材を提供したり、外部支援者の撤退後も支援が止まらないようにすることを心がけた活動でした。常駐支援を終えた後も、現地の関係者とは定期的に連絡を取り合いながら交流を続けています。地震、水害と度重なる災害支援を支えてくださった皆さま、本当にありがとうございました。

PBV現地コーディネーター **大塩さやか**

※避難所運営や食事支援、被災者支援コーディネート業務の一部は、輪島市からの委託事業として実施しています。

支援調整窓口の運営



支援調整窓口への問い合わせ内容は、初期の炊き出しから、お茶会や相談会などへと需要が変化しました。石川県の再建事業を公民館等へ繋ぎ地域でできることを増やすほか、仮設住宅だけでなく在宅や福祉施設等にも目を配り、支援の偏りや格差が生まれないよう工夫して活動を継続しています。

－実績－

調整数：累計3,122回
(炊き出し8,750食、食料物資32件、慰問・イベント745件、その他サロン・心身ケアなど268件)
石川県能登半島地震「地域コミュニティ再建事業」の調整数：369件

避難所・避難生活の支援



－実績－

避難所6か所の常駐運営支援
全186か所の避難所へのアドバイザー対応
市内全域の食事調整
防災・減災研修の実施

地震と豪雨の二重被災により、輪島市内の避難所は発災から約500日が経過した2025年4月13日に全閉所を迎えました。長期に及んだ避難生活の課題や対応を教訓として災害に備えるため、地域住民や職員らと研修会を実施しました。

※珠洲市での常駐支援は、2025年10月末で終了しました。その後は、オンライン会議などを通じた現地支援者との連携を進めています。



水害時の家屋対応

専門性を高め、生活再建を支える

九州豪雨【鹿児島・熊本】

8月に九州地方を襲った大雨により、各地で浸水や土砂による被害が発生。物資や炊き出しによる緊急支援を行い、被害を受けた家屋の応急復旧に取り組みました。

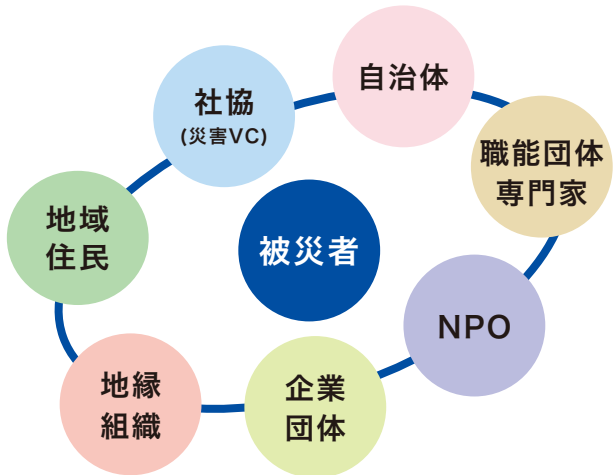


発災直後の緊急支援では、「緊急災害対応アライアンス（SEMA）」や企業を通じて提供された飲料水やサーキュレーター（送風機）を配布。佐賀県に配備していたPBVのキッチンカー「フーバー」も出動させ、炊き出しを実施しました。その後、約4ヶ月にわたって常駐を続けた鹿児島県始良市では、浸水や土砂被害を受けた家屋の泥やカビ対策など、家屋保全のための技術系ニーズに対応しました。

期間	2025年8月9日～12月31日
場所	鹿児島県始良市（あいらし）など
実績	飲料水や送風機などの物資支援 鹿児島・熊本県内9市町村への調整
	フーバーによる炊き出し 計220食 家屋の応急対応 51件
	生活再建に向けた個別相談、関係機関との連携（災害ケースマネジメント）

生活再建に向けた災害ケースマネジメント

被害を受けた家々を訪問すると、ほとんどは「私は大丈夫です」から始まります。何から手をつけるべきか、誰にいつ何を頼めばいいのか、この人は信用できるのか。「大丈夫です」の言葉の裏側には、多くの疑問や不安が隠れています。PBVが現地常駐型の支援を続けるのは、これらの疑問や不安に丁寧に寄り添い、状況に応じた生活再建と一緒に考えることが大切だと考えるからです。時には、活用できる公的な支援制度と繋いだり、各分野の専門家や関係者に協力を求めることもあります。被災者を中心とした支援の輪は「災害ケースマネジメント」とも呼ばれ、PBVの活動でも常に心掛けて取り組んでいます。



長期化する避難生活

安全な水と物資の提供

セブ島地震・台風

【フィリピン】



2025年9月30日、セブ島沖でM6.9の地震が発生。セブ島北部は、多数の建物倒壊や断水被害などを受けました。11月には大型台風がセブ島を襲い、避難生活はさらに長期化、生活再建にも大きな影を落としました。PBVでは、現地パートナー団体と共に給水支援と物資支援を実施。現地では設置した浄水器の水で炊き出しが実施されるなど、安全な水の確保につながりました。

期間	2025年10月～2026年1月	
場所	フィリピン・セブ島	
現地パートナー	Safe Water for Every Child Philippines Balay Mindanaw Foundation, Inc. (BMFI)	
実績	給水支援	417世帯を対象とした給水所の修繕、給水車による飲料水提供5,368世帯分など
	物資配布	家屋修繕キット136世帯分、水タンク・バケツ1,013世帯分、大工道具60セットなど

度重なる台風被害

住まいと衛生の課題に対応

カタンデュアネス島台風

【フィリピン】



2024年に台風被害を受けた漁村を支援したフィリピン東部・カタンデュアネス島では、2025年11月にも大型台風による高潮などの被害が発生しました。家屋の被害を受けた世帯を対象に、安全な仮住まい（シェルター）の設置や修繕を進めています。この他、調理器具や衛生用品などの物資配布、トイレや水浴び場、給水所の整備などの水衛生支援を行っています。

期間	2026年11月～継続中	
場所	フィリピン・カタンデュアネス島	
現地パートナー	People's Disaster Risk Reduction Network (PDRRN)	
実績	シェルター支援	38世帯分の仮住まい設置、家屋修繕支援約100世帯分の支援を予定
	物資・衛生支援	調理器具・衛生用品の配布209世帯分、トイレ、水浴び場、給水所の設置など

東南アジア、南アジアで 記録的な豪雨

スマトラ島豪雨

【インドネシア】

大規模な洪水と地すべりの被害を受けたスマトラ島で、温かい炊き出しの提供や衛生用品の配布などの支援を実施しました。



東南アジア・南アジアの広域を襲った豪雨により、スマトラ島北西部では26万棟を超える建物被害が発生。現地パートナー団体と共に、温かく栄養のある炊き出しの提供や食料品セット配布などの食料支援を実施しました。また、石鹸・生理用品などの衛生用品、蚊帳や寝具などの生活再建に必要な物資を提供しました。総受益者は9,690世帯以上、約5万人に相当します。

期間	2025年12月～2026年3月	
場所	インドネシア・スマトラ島	
現地パートナー	ASAR Humanity	
実績	食事支援	炊き出し27,300食、食料品セット1,108世帯分
	物資支援	衛生用品775世帯分、寝具等150セット、貯水タンク12基など

ガザ越冬支援

期間：2025年12月～2026年2月
場所：パレスチナ・ガザ地区
内容：シェルター用テントの提供

パレスチナのガザ地区では、過酷な生活環境が続いています。PBVは国際NGOピースボートと共同で、住まいを破壊され路上生活を余儀なくされている人々への越冬支援のため、現地パートナーを通じて5人用テント43張りを配布しました。



台湾台風

期間：2025年9月～2026年3月
場所：台湾・花蓮県
内容：子どもたちの給食支援

台湾東部を襲った台風18号により、花蓮地方は甚大な洪水被害に見舞われました。PBVでは現地の「慈濟（ツーチー）基金会」を通じて、被災した町の学校に通う児童向けに、栄養たっぷりの計795食の給食を提供しました。



ウクライナ人道支援

期間：2022年3月～継続中
場所：ウクライナ
内容：リハビリ支援事業

現地医療プロジェクト「UNBROKEN」に提供した歩行支援装置「RE-Gait（リゲイト）」は、その後ウクライナで活用が進んでいます。導入後の1年間で95名が歩行訓練を実施し、杖なしで歩行できるようになったなどの成果が出ています。



実践を見据えた研修で 災害支援の担い手を

防災・減災教育

被災地の現場は、常に判断を迫られます。座学研修でのグループワークやシミュレーションなど、一方的な講義ではなく、より実践的な学びを心がけています。累計での実施回数は1,500回、受講者数は60,000人を超えました。



期間	2025年4月～2026年3月
内容	講演・事例発表、報告会等のイベント 講師派遣（災害ボランティア研修、避難所の運営研修など） ※その他、専門誌への寄稿・執筆など
実績	実施回数：117回 受講者数：6,811人 ※オンライン開催を含む

外国人のための防災教育 教材開発と講師人材の育成

（東京都在住外国人支援事業助成金）

日本に暮らす外国人は増加傾向で、特に日本での生活期間が短い外国人住民の多くは災害時の避難行動に不安を感じています。PBVでは、東京都内の外国人を対象に、英語とやさしい日本で事前アンケートを行って課題を把握し、オンラインと対面でのセミナー・ワークショップを実施。その後、防災体験施設への訪問やコミュニティリーダー向けの講師養成を目的とした特別研修を行いました。

PBVサポートスタッフ登録制度 「サポスタ」の 募集を開始しました！

各地で自然災害が頻発化・激甚化する中、PBVでは新たに「サポスタ（PBVサポートスタッフ登録制度）」の運用を始めました。事前の学びと実践を重ねた即応人材を事前に育成・ネットワーク化することで、災害支援のスピードと質はもっと充実したものになります。事前登録や各種ご案内は、LINEを通じて行います。ぜひ「サポスタ」にご参加ください。



詳細はこちら
<https://pbv.or.jp/saposuta/>

災害支援ガイドブック 「サイガイド」 WEBサイトがオープンしました！

PBVが全国各地で実施してきた災害支援や防災・減災に関するノウハウを社会に還元するため、新しいWEBサイトを立ち上げました。行政や社会福祉協議会の防災担当者、災害支援に関心があるNPOやボランティアに向けた記事をお届けしていきます。今後は、スタッフや専門家へのインタビュー記事なども掲載していく予定です。



詳細はこちら
<https://saiguide.pbv.or.jp/>

国内外21のネットワーク

「避難生活支援ネットワーク(EDAN)*」が発足

PBVは、国内外の災害支援ネットワークに加盟しています。2025年9月には、「避難生活支援ネットワーク(EDAN)」が設立されました。PBVは事務局として、加盟団体とともに避難生活の質を支えるTKB(トイレ、キッチン、ベッド)の平時の備蓄を進め、発災時には現地調整役を担います。

*EDAN(イーダン・Essential Disaster Assistance Network)は、フィリップ モリス ジャパン合同会社(PMJ)が発起人として構想立案に関わり、運営資金を提供している、特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)および複数の災害支援団体とともに設立された、避難生活支援に特化したネットワークです。
https://edan-bosai.jp/

国際ネットワーク

国連防災機関(UNDRR)Making Cities Resilient:My City is Getting Ready／Global Network of Civil Society Organisations for Disaster Reduction (GNDR)／ジャパン・プラットフォーム(JPF)／防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR)／国際協力NGOセンター(JANIC)／NGO安全管理イニシアティブ(JaNISS)／支援の質とアカウンタビリティ向上ネットワーク(JQAN)

全国ネットワーク

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)／日本NPOセンター(JNPOC)／震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)／民間防災および被災地支援ネットワーク(CVN)／緊急災害対応アライアンス(SEMA)／国民生活産業・消費者団体連合会(生団連)／災害支援DXイニシアティブ／みんなの炊き出し研究所／避難生活支援ネットワーク(EDAN)

地域ネットワーク

災害協働サポート東京(CS-Tokyo)／女性防災ネットワーク・東京(GDN-T)／おおさか災害支援ネットワーク(OSN)／佐賀災害支援プラットフォーム(SPF)／新宿NPOネットワーク協議会

メッセージ



西村あさひ法律事務所・外国法共同事業
パートナー
伊藤 真弥 さん

PBVの皆様が、国内外の災害現場において、被災者一人ひとりに寄り添いながら継続的な支援を行ってこられたことに、深い敬意を表します。今後は、官民・国内外の多様な主体との連携をさらに高め、より広範かつ迅速な支援体制が構築されることを期待しております。PBVの挑戦が、災害に強い社会の実現に一層寄与されることを願っております。

※PBVの災害支援活動を法的側面からご支援いただいています。



ラムリサーチ合同会社
Corporate Communications
蔵田 有希 さん

ラムリサーチは半導体製造装置のリーディングカンパニーとして、私たちが暮らし、働く地域社会とのつながりも大切にしています。こうした考えのもと、当社は「Resilient Communities」を社会貢献活動の重要な柱のひとつと位置づけ、災害支援や防災ワークショップを展開するPBVの取り組みを支援しています。PBVとのパートナーシップを通じて、より備えのあるコミュニティづくりに関われることに大変感謝しています。

※2025年度より、PBVの国内の支援活動に継続してご支援いただいています。



フーバーを全国へ！

キッチンカーの車両貸出と導入支援を開始

キッチンカー「FOOBOUR(フーバー)」は、2024年に佐賀県大町町、2025年10月に石川県輪島市で運用を開始しました。平時には無人型の食料支援拠点として、2025年度は計80世帯(のべ3,183人)に9,021個の食料品や日用品を提供したほか、災害時には被災地での炊き出し支援も行いました。2028年までに全国10か所にフーバーを配備するために、2025年度から「避難生活支援ネットワーク(EDAN)」の特別支援も活用した導入支援を進めています。



福島子どもプロジェクト

多文化に触れ、平和を育む船旅へ

国際NGOピースボート、NPO法人南相馬こどものつばさと共同で実施している「福島子どもプロジェクト」は今回で12回目を迎えました。南相馬市の中学生が参加したのは、夏休み18日間のスタディーツアー。日本を出発した3名は香港を経由し、船旅でカナダ、アラスカを巡りました。船内では様々な世代や経験を持つ人との交流や学びがあり、そして緊張しながらも大勢の前で発表する貴重な経験をすることができました。



遺贈寄付・相続財産寄付

ガイドブックと「もしも手帳」が完成しました！

遺言書を通じて財産の全部または一部を非営利団体に寄付する「遺贈寄付」が、近年日本でも注目を集めています。「PBVに託された遺贈寄付がどんな災害支援活動に使われるのか」という疑問から、遺言書の書き方、相続に関するよくある質問まで、初めての人にもわかりやすいガイドブックを作成しました。ご希望の方には、終活にも災害時にも役立つオリジナルのエンディングノート「もしも手帳」と一緒にお届けしています。

メディアでの紹介

74媒体に計95回取り上げていただきました

【テレビ】 石川テレビ／九州朝日放送／テレビ金沢／テレビ東京「テレ東フェムテック委員会」／東洋経済／日テレ「news every」／文化放送／北陸朝日放送／北陸放送／KTS鹿児島テレビ／NHKニュース／NHK「ニュース解説持論公論」 【新聞】 朝日新聞／朝日新聞SDGs ACTION!／伊勢新聞／大分合同新聞／観光経済新聞／産経新聞／スポニチ／聖教新聞／中日新聞／西日刊自動車新聞社／日本経済新聞／農業協同組合新聞／福島民報／北陸中日新聞／北國新聞／毎日新聞／南日本新聞／読売新聞 【雑誌・書籍】 主婦の友社「遺贈寄付ブック2026」／日本財団「自治体職員のための『災害時における共助の活用の手引き』」／日本食糧新聞「災害時 炊き出しハンドブック」／Japan Documents「Handbook of Disaster Studies in Japan」／月刊福祉／「コープナビ」ほっとnavi／小学生向け防災情報紙「もしも新聞」／全日本私立幼稚園幼児教育研究機構「こどもがまんなかしんぶん」／コミュニティ心理学研究「特集：日本コミュニティ心理学会第27回大会 大会企画シンポジウム 災害時におけるコミュニティ心理学的支援－非日常から日常へとつなぐために－」／消防防災科学センター「地域防災データ総覧」 【ラジオ】 NHKラジオ「Nらじ」 【ネットメディア】 伊那谷ねっと／沖縄タイムス／共同通信／時事通信／週刊金曜日／真如苑救援ボランティアサーブSeRV「情熱シアター」／タウンニュース／「デモクラシータイムス」(YouTube)／トラベルボイス／日本財団「ぼ活!」／日本財団(YouTube)／「畠山澄子が問う 社会を変える争点はこれだ ～2025参院選～」(YouTube)／物流ニュース／マイナビ「大河原克行のNewsInsight」／AMP News／ASCII.jp／CORECOLOR／dメニュー／J-castトレンド／LOGISTICS TODAY 【その他】 公益財団法人大阪府市町村振興協会・おおさか市町村職員研修研究センター「多様な視点を活かした避難所運営ができる仕組みづくり研究会成果報告書」／大町町「広報おおまち」／グリーンコープ機関紙／ジャパン・プラットフォーム活動レポート／スターバックス「People & Community」／内閣官房「国土強靱化に資する民間の取組R8事例集(被災者ニーズと支援の申し出を整理・調整し被災地全体を支える体制を構築)」／パルシステム国際協同組合年新聞／ボルネードジャパン「24/7 with VORNADO」／南相馬市「みなみそうまトピックス」／Airbnb公式サイト／JVOAD技術系専門委員会「技術系ニーズ作業区分一覧」／一般社団法人RCF「奥能登豪雨災害 官民連携の効果と課題」レポート／VOIX SDGs

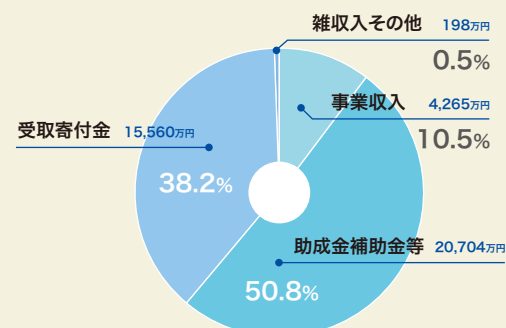


詳細はこちら
<https://pbv.or.jp/bequest>

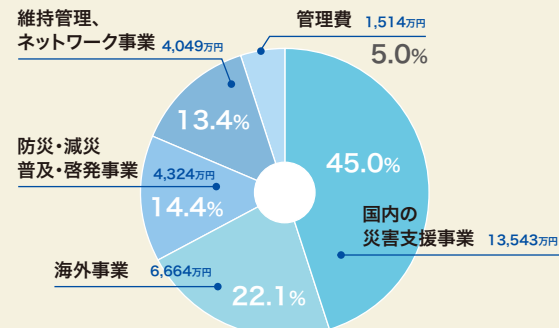


2025年度財務報告

【収入の内訳】



【支出の内訳】



貸借対照表

【資産の部】

1. 流動資産

現金預金	264,473,640
未収金	33,401,720
前払金	25,053,212
棚卸資産	3,029,663
前払費用	512,449
仮払金	339,362
流動資産合計	326,810,046

2. 固定資産

特定資産	
補助金資産	201,340,759
特定資産合計	201,340,759

その他固定資産

建物	3,034,320
車両運搬具	15,834,589
工具器具備品	3,605,979
敷金	4,000
保証金	3,150,000
長期前払費用	30,123
その他固定資産合計	25,659,011

固定資産合計	226,999,770
資産合計	553,809,816

【負債の部】

未払金	24,225,109
未払費用	5,590,906
前受金	5,324,500
預り金	668,343
未払法人税等	0
負債合計	35,808,858

【正味財産の部】

指定正味財産	201,340,759
一般正味財産	316,660,199
正味財産合計	518,000,958

正味財産増減計算書

I 一般正味財産増減の部

1. 経常増減の部

経常収益計	407,270,794
事業収益	42,652,204
受取補助金等	207,041,356
受取寄付金	155,602,354
為替差益	1,237,501
雑収益	737,379
経常費用計	302,137,939
事業費 計	286,992,224
管理費 計	15,145,715
当期経常増減額	105,132,855

2. 経常外増減の部

当期経常外増減額	0
法人税、住民税及び事業税	0
当期一般正味財産増減額	105,132,855
一般正味財産期首残高	211,527,344
一般正味財産期末残高	316,660,199

II 指定正味財産増減の部

受取補助金等	267,715,347
受取寄付金	0
一般正味財産への振替額	△ 262,067,511
指定正味財産からの振替	△ 262,067,511
当期指定正味財産増減額	5,647,836
指定正味財産期首残高	195,692,923
指定正味財産期末残高	201,340,759

正味財産期末残高	518,000,958
----------	-------------

※財務諸表の詳細は、公式WEBサイトに公開しています。

※当団体監事及び公認会計士小宮山榮事務所からは、監査の結果、理事の業務執行及び財務諸表等は、法令、定款及び事業計画書に基づき執行され、不正の行為または法令・定款に違反する重大な事実はない旨、報告がなされています。

※2025年度の当期経常増減額は105,132,855円となりました。このうち86,075,839円は、能登半島地震および奥能登豪雨の被災地で継続する支援活動に活用する予定です。PBVIは、2026年度以降も被災者の生活再建や地域の復興に向け、必要とされる支援を継続してまいります。

ご支援・ご協力いただいた皆さま



2025年度も、多くの企業・団体、個人の方からご寄付や食材・物資・サービスの提供、ボランティアへのご参加などによる様々なご協力をいただきました。また、各地域での活動は現地で受け入れてくださった住民の皆さま、町内会・自治会・地域団体の皆さまのおかげです。特に災害時には自治体や社会福祉協議会とも連携して活動をしています。全員のご紹介が叶いませんが、ご協力いただいた皆さまに心よりの感謝を申し上げます。

支援金へのご協力

pal*system

Lam
RESEARCH

Landix

あおぞら銀行

Shimmyo
真知苑

Robert—
Walters

Kuradashi

良知経営

ウネドストレスチャリティーコンサート / 株式会社エイトラス / 株式会社オーエムツーダイニング / 宮中舞踏会 / 株式会社協働日本 / 株式会社小鳥の森ゴルフパーク / 一般社団法人ジオーガニックデイズ / 紙上読書会 / 静岡県立科学技術高等学校 / 常翔学園中学校・高等学校 / 草加市明るい社会づくり運動協議会 / 株式会社鶴見建築 / 東神鋸螺工業株式会社名古屋工場 / 株式会社トゥーモ / ドットシー株式会社 / 株式会社日美 / 宗教法人日本基督教団阿佐谷東教会 / ネットワンシステムズ株式会社 / 株式会社働きかた研究所 / ビナーシェ / ピースポートセンターなごや / ピースポートセンターふくおか / 「まちのの間」住民の皆さま / 杜のパン屋 / 箭田地区まちづくり推進協議会 / 竜崎温泉ちどり / 輪島ルシェ / 一般社団法人FI Lab Square / eecoto株式会社 / Free Tea Stand / Google Cloud Japan / 株式会社MIRA / PLACZ Group / Seeds+ / 株式会社THRIVE / TMコミュニケーションサービス株式会社

寄付プラットフォーム

benevity

ふるさとチョイス

YAHOO! ネット募金

助成金のご協力

JAPAN
PLATFORM

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

東京都在住外国人
支援事業助成

PHILIP MORRIS JAPAN

信頼資本財団

CDP
Center for Disaster Philanthropy

PRF
パブリックリソース財団
寄付者格認定